

新任診療部長紹介

呼吸器内科

専門分野

びまん性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患



あらや じゅん
荒屋 潤

呼吸器疾患には新型コロナウイルス肺炎に代表される感染症、肺癌、アレルギー疾患の気管支喘息、煙草に起因する慢性閉塞性肺疾患、特発性肺線維症を含むびまん性肺疾患などがあります。近年の呼吸器疾患の治療薬の進歩は著しく、肺癌治療薬としての免疫チェックポイント阻害剤、気管支喘息への生物学的製剤、肺線維症における抗線維化薬などがあります。最先端かつ最良の医療を適切に選択し、常に患者様に寄りそった全人的な医療を実践することが、我々の使命と考えております。

小児外科

専門分野

新生児手術（出生前診断）、内視鏡手術、小児泌尿器



くろべ まさし
黒部 仁

小児外科では脳、心臓、骨格以外の呼吸器・消化器疾患に加え、小児の泌尿器・婦人科疾患まで広い範囲を扱います。出生前より産科、新生児科と連携して治療に携わり、出生後は子どもの成長に合わせた治療、負担の少ない手術方法（内視鏡手術）を積極的に行っています。専門外来（漏斗胸・胸郭変形、舌小帯、消化管機能、出生前診断、小児泌尿器）を開設し、子どもたち、そしてそのご家族に寄り添った医療が提供できるよう心がけております。

すこやか

No. 73 2023

インフォメーション

慈恵大学病院だより



TOPICS がん相談支援センターのご案内

がんの疑いがあると言われた時やがんの診断を受けた後、治療中、治療後と病気の段階を問わず、様々な不安や悩みを抱えていることがあります。がんと上手につき合い、自分らしく暮らせるように相談員がお話を伺い一緒に考えます。患者さんご本人はもちろん、ご家族やご友人、支援者など、どなたでもご利用いただけます。

■がんサロン ソレイユ

がんサロン ソレイユはがんに関する情報コーナーとして、病気や治療、療養生活に関する情報を得られる場所です。がんに関する各種パンフレット、患者団体情報、講演会案内などを設置しています。

■がん患者サロン

がん患者さん、ご家族、支援者の皆様の学び・交流の場です。

生活に役立つさまざまな内容で開催しています。
例：お金や制度について、食事の工夫、アロマストレッチ、がん治療の副作用による外見の変化に対するケアなど

■相談：対面・電話（予約優先）

電話：03-5400-1232（直通）

時間：月～金 9：00～12：00 / 13：00～16：00

土 9：00～12：00



特集 呼吸器内科の診療のご案内

スタッフ紹介・新任診療部長の紹介
呼吸器内科／小児外科

TOPICS
がん相談支援センター事業紹介



呼吸器内科では、肺、気管支に生じる様々な呼吸器疾患を診療しています。当科で扱う疾患は、肺がんなどの悪性腫瘍、気管支喘息をはじめとしたアレルギー疾患、細菌性肺炎などの感染症、膠原病や間

質性肺炎などのびまん性肺疾患が代表例です。本特集ではそのうち当科における、気管支喘息の診療と間質性肺炎の診療について解説します。

気管支喘息の診療

気管支喘息は、私たちの気管支が炎症を起こし、狭くなってしまふ病気です。特に夜間や早朝にヒューヒューという喘鳴（ぜんめい）と呼ばれる音が聞こえたり、息苦しさを感じたり、長引く咳が出ることがあります。

日常生活での注意点として、喘息の発作を引き起こす引き金となるもの、例えば花粉、ダニ、寒冷、運動、タバコの煙などがあります。これらの引き金を理解し、可能な限り避けるようにすることで、症状の発生を予防することができます。部屋の掃除や布団の日光消毒を定期的に行い、ダニやハウスダストの量を減少させることも効果的です。

治療として、以下の方法が一般的に用いられます。

●**吸入ステロイド**：喘息の最も有効かつ標準的な治療法です。気管支の炎症を抑えるための薬で、毎

日の継続的な使用が必要です。

●**気管支拡張薬**：内服薬や吸入薬があります。喘息発作時や、予防的に使用する薬。気管支を広げて呼吸を楽にする効果があります。

●**生物学的製剤**：近年の治療として注目されているもので、体の免疫応答を調節することで炎症を抑える効果があります。一部の患者さんにおいて、従来の治療で十分な効果が得られない場合に選択されることが多いです。

現在、生物学的製剤は使用できる選択肢が増えており、専門医による治療決定が望まれます。当科では、隔週水曜日のアレルギー外来の他にも、アレルギー専門医による診療もほぼ毎日行っております。詳しくは呼吸器内科外来までお問い合わせください。



吸入治療



生物学的製剤（抗体治療）

間質性肺炎の診療

間質性肺炎は、肺の中にある組織（間質）が炎症を起こし、その後線維化（硬くなること）する病気です。この線維化により、肺の柔軟性が失われ、酸素の取り込みが上手くできなくなることが特徴です。

この病気により、息切れや乾いた咳、疲れやすさなどの症状が現れます。初期の段階では自覚症状が少ないことも多いですが、放置すると呼吸器症状が進行し重篤になる恐れもありますので早期に専門医の診察を受けることが必要です。

診断には熟練した読影能力ももちろん重要ですが、より正確な診断のためより大きな肺の組織生検が求められます。当科では、従来の気管支鏡による肺生検に比べ大きな組織が採取可能で、外科手術的生検よりも低侵襲な、凍結肺生検法による診断も導入しております。また採取した組織については、放射線科、内科、病理科による多職種合議（MDD）により、十分検討し、患者さん一人一人のオーダーメイドの治療を行うようにしています。

治療として、以下の方法が一般的に用いられます。

●**副腎皮質ステロイド**：肺の炎症を抑えるための薬です。効果的に炎症を抑えることができますが、長期的な使用には注意が必要です。

●**免疫抑制薬**：体の免疫反応を抑えることで、肺の炎症や線維化の進行を遅らせる効果があります。

●**抗線維化薬**：肺の線維化を抑える新しい治療薬で、病状の進行を遅らせることが期待されています。

当科では、難治性の間質性肺炎において、最新のエビデンスに基づいた治療を積極的に行っており、新薬への治験の参加も行っています。詳しくは呼吸器内科外来へお問い合わせください。



間質性肺炎のCT画像

呼吸器内科 スタッフ紹介

専門分野 びまん性肺疾患、気管支喘息、COPD

皆川 俊介

出身地 広島県

趣味 ゴルフ、筋トレ、ダイエット

休日の過ごし方 子供のボウリング観戦、ネットフリックス



専門分野 びまん性肺疾患、気管支喘息、COPD

伊藤 三郎

出身地 神奈川県小田原市

趣味 スノーボード、サイクリング

休日の過ごし方 ウォーキング、観劇

